

授業科目名	高齢者看護学臨地実習Ⅰ	担当教員	◎山田案美加、青山美紀子、 那須 真弓	科目ナンバリング
必修	開講年次：3年後期	単位：1単位	授業形態：臨地実習45時間	NS369

【授業概要】

加齢に伴う変化や健康障害のみならず、高齢者がこれまでに歩んできた人生、家族関係、地域社会での役割などを含めた包括的なアセスメントから高齢者の理解に焦点をあてる。また、高齢者施設における他職種連携の実態と看護師の役割を学ぶとともに、自己の倫理観を高める。

【達成目標】

1. 対象者を包括的にアセスメントできる。
2. アセスメント(対象者の生活史に関する情報収集)、フィジカルアセスメントをもとに対象者の全体像を述べることができる。
3. 把握した対象者の全体像をもとに看護問題が記載できる。
4. 尊厳を重んじる態度で対象者および家族と意思疎通をはかることができる。
5. 高齢者施設における看護師の役割と責務について理解することができる。
6. 高齢者施設における多職種連携について理解することができる。
7. 自分の言動に責任をもち、自律した専門職としてふさわしい行動をとることができる。

【履修条件】

「基礎看護学臨地実習Ⅰ・基礎看護学臨地実習Ⅱ」、「高齢者看護学概論」、「高齢者看護援助論」を修得していること。

【授業計画】

実習1日目 オリエンテーション(学内・施設)、受持ち利用者紹介
 実習2～4日目 施設実習：情報収集、アセスメント、全体像の把握、看護問題の抽出、利用者へのケア
 実習5日目 実習のまとめ、評価面接

【教科書】

指定なし

【参考書】

高齢者看護学概論や高齢者看護援助論で使用した教科書、参考書、資料

【評価方法・評価基準】

実習目標への到達度70%、事前学習10%、課題レポート10%、カンファレンス参画度10%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業(高齢者看護援助論)が終了した時点で事前課題を提示する。加齢による変化及び病態生理に基づいたアセスメントを理解しておく。看護技術(バイタルサインの測定、フィジカルアセスメント、日常生活援助)については、安全安楽に実施できるよう練習しておく。(2時間)

事後学習：1日の実習終了時に各自が体験したことを振り返り、必要な知識を深めた上で記録を完成させる。(1時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅱ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅲ. チーム医療におけるコミュニケーションとコラボレーション能力、Ⅳ. ヘルスプロモーションと予防の実践能力、Ⅵ. 継続的に専門性を向上させる実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

実習に関わる記録は、4年次前期に学生個人に返却する(掲示により連絡)。

【備考】

- ・ 高齢者看護学臨地実習Ⅱの基礎となる。
- ・ 詳細は高齢者看護学臨地実習要項にて確認すること。
- ・ 看護師として5年以上の臨床経験を持つ教員が臨地実習を指導する。